

国際交流

平成9年9月30日創刊
 令和2年3月31日発行(第42号)
 二松学舎大学国際交流センター
 〒102-8336東京都千代田区三番町6-16
 Tel: 03-3261-5751

◆目次◆

①二松学舎大学と海外の大学との協定締結(中国)..... 1	中国・周口師範学院 鄧 耀慧..... 7
②2019年度 夏期短期海外語学研修(英語圏)実施報告 国際政治経済学部2年 村野 太一 (カナダ フレーザーバレー大学)..... 1	中国・浙江工商大学 王 蕾..... 8
③2020年 春期短期海外語学研修(英語圏)体験談報告書 文学部2年 二階堂 千翼(英国 バッキンガム大学)..... 2	中国・浙江工商大学 姫 甜夢..... 8
④2019年度 派遣留学修了報告 文学部4年 伊藤 千晶(台湾 中国文化大学)..... 3	中国・浙江工商大学 胡 銘心..... 9
⑤2019年度 派遣留学修了報告 大学院文学研究科 博士前期課程2年 鈴置 拓也(中国 浙江工商大学)..... 5	中国・浙江工商大学 潘 思慧..... 10
⑥2019年度 交換留学生修了報告 台湾・中国文化大学 陳 禹慈..... 6	中国・浙江工商大学 呉 慧麗..... 11
台湾・中国文化大学 陳 郁雯..... 6	中国・浙江工商大学 唐 尚博..... 11
	中国・浙江工商大学 李 芷..... 12
	中国・浙江工商大学 林 晶晶..... 13
	⑦2019年度 国際交流の会と留学フェア報告..... 14
	⑧2019年度 国際交流年末懇親会報告..... 15
	⑨2019年度 日本語・日本学特別プログラム報告..... 15
	⑩2019年度 日本語文化特別プログラム報告..... 16
	⑪国際交流センターからのお知らせ..... 16

2019年度に交流協定を締結した大学(2大学)

毎年、積極的に海外協定校を拡充しておりますが、2019年度は台湾にある2つの大学と新規に協定を締結しました。

文藻外語大学(台湾)
 銘伝大学(台湾)



文藻外語大学(台湾)



銘伝大学(台湾)

2019年度 夏期短期海外語学研修(英語圏)実施報告

フレーザーバレー大学(カナダ) 短期海外語学研修に参加して

国際政治経済学部 2年 村野 太一

海外語学研修の参加を決めた理由

夏休みに入る前、両親から「短期の語学研修に参加してみてもどうか」と提案され、自分でも「長い休みの間に何か面白いことをしてみたい」「夏休みを有効に活用したい」と考え、研修への参加を決めました。

研修先と宿泊先の雰囲気

夏のカナダはとても涼しく、勉強や様々なアクティビティをするのにとても適した環境です。大学では現地のボランティア学生がとても親切に面倒を見てくれるため、安心して過ごすことができました。大学のキャンパスではウサギやリスを見かけることができるほど自然を身近に感じることができました。

また、ホストファミリーとは様々な話をしたり、バスケットボールに誘われたりと、お客様ではなく、一人の

家族として迎え入れられたと実感しました。

学習の内容/今回の研修で得たこと

カナダの歴史やカナダで多く見かけることができるコーヒーチェーンのTim Hortonsに関する歴史など身近なものをテーマにした講義形式の授業など英語を「学

ぶ」だけでなくバンクーバーへの小旅行、現地のカナダ人ボランティアとのゲームやキャンパスツアーなど英語を「使う」場面が多くありました。英語で確実に相手に伝える力がついたと思います。この研修に参加して自分自身の語彙力のなさを実感しましたので、これからの英語の勉強についての意識が高まりました。



(左)：明るく親切に接してくれた現地のボランティア学生



(右)：現地の担当者カラさん(左)とボランティア学生リーダーのサバンナさん(右)

2020年 春期短期海外語学研修（英語圏）体験談報告書



バッキンガム大学(英国)

文学部2年 二階堂 千翼

短期海外語学研修の参加を決めた理由

学生のうちに何か貴重な体験をしておきたいと考えており、そのひとつに留学がありました。英語力が求められる現代、英語を勉強する方法として、実際に英語が話される土地で生活することは深い学びが得られると思ったし、異文化を体験することで自分の価値観が変わり、これからの人生に何か繋げられるのではないかと考えた為です。国際交流センターに訪れ話を伺ったり、説明会に参加したりして、イギリスへの留学プログラムに魅力を感じた為、参加を決めました。

研修先の雰囲気

(キャンパスや先生たちの雰囲気、現地学生との交流等)

キャンパスは広大で自然が多く、パソコンやスクリー

ンなども揃っている設備の良いところでした。先生方は今回5名にお世話になりましたが、どの方もとても気さくで明るく、親切な印象です。授業は日本人学生だけなので、現地学生との交流はあまりありませんでしたが、時々現地学生が授業中にお話ししてくださることや、パーティー、ロンドンへの旅などで一緒に行動することもありました。



学習の内容

(授業内容、先生の印象、課題・自習の量等)

午前中はイギリスの地理や歴史などの講義を受けます。階級制度や王室についてなど日本と異なる文化について学べるのでとても興味深かったです。少し進むスピードが早かった為、苦勞はしました。午後は英会話を学びました。日常生活で使えるようなフレーズから買い物時のフレーズまで、英語を話す練習がたくさんできました。授業ではひとりひとり指名されるので、自主性や積極性も養われたと感じます。課題は日常的に日記を書くことでしたが、楽しんでやれました。観光地への旅のプログラムが組まれている夜などは遅く帰宅する為こなすのが大変でしたが、よい経験になったと思います。

現地での生活の様子

ロンドンに出かけたことが楽しかったです。様々なロックミュージシャンの聖地を訪れたり、イギリス最大のマーケットで買い物をしたり、紅茶の専門店に行ったりなど、とても充実した時間を過ごすことができました。ホームステイではホストファミリー以外の同居人と協力して掃除やお手伝いをすべきですが、そこに意見や性格の違いを感じることがありました。同じ家で生活する以上、合わないところがあると困ってしまいました。



この留学でもっとも成長した点

語学力は伸びたと感じています。単純に英語を話すスキルが伸びたことや語彙が増えたことに加え、アメリカ英語でないイギリス英語の知識が増えました。片言の英語でも積極的に話すことで練習になるし、それによって自信もつくため、今までの外国語に対する難しさや自信の無さは少し減ったと思います。

2019年度 派遣留学修了報告



台湾 中国文化大学
1年間の交換留学を終えて
文学部4年 伊藤 千晶

「留学に行ったからといって話せるようになるわけじゃないよ。」

これは私が入学して間もない1年生の時に先輩に言われた言葉でした。当時の私には、かなりの衝撃でしたが、いま思えば留学に対してまだワクワクとしか考えていなかったなと思います。

わざわざ現地に行かなくても、中国人や台湾人の観光客や留学生がたくさんいるこの時代。「まだまだ日本でできることがある」と考え、自分の学習方法を一から見直し、大学3年生の時「中検2級、HSK5級に受かったら留学へ行こう!」と決め、交換留学制度にチャレンジ

しました。聞き取りもあやふやであり話せないまま行くのと、少しはできるレベルで行くのとでは、同じ1年間の留学経験でも学べる事、出来る事が大いに違うと思ったからです。

審査会に合格し、2018年9月から台湾の中国文化大学で交換留学をスタートさせましたが、最初からすぐに思い通りの留学はできませんでした。初めての留學生活で、日々緊張の連続のため、どうしても最初は日本人同士でかたまってしまい、結局日本語を話していました。

授業も他国の留学生達と受講しているのですが、曖昧な中国語でもなんとなくニュアンスで伝わることで妥協してしまう。そのような当初は、「台湾まで留学に来たのに、自分は何をしているのだろう。」と悩みました。

「このままでは流されて1年間が終わってしまう」という危機感を持つようになり、まずは積極的に本科生の



授業に参加して、となりに座っている学生に話しかける努力をしました。そのうちに少しずつではありましたが、台湾人と交流する機会が増え、会話能力を向上させることができました。

冒頭の先輩の言葉を受けていたので、1年生の時から留学する前までの間、語学学習と並行して日本での空港アルバイトや外国人との交流会へ参加してネイティブと交流することを意識して実行していたことがこの時役に立ちました。完璧な中国語が話せなくても、まったく知らない現地の学生に話しかけることに抵抗はありませんでした。“日本でできることをしてから留学に行く”という選択は本当によかったなどこの時あらためて実感しました。

中国文化大学での前期はどちらかというと日本語学科、他国の留学生との交流が多かったのですが、後期は違う学科の学生との交流が増え、“友達の友達はみんな友達”という台湾人特有のスタイルから、出かけるたびにどんどん新しい人と知り合いました。様々な交流を通じて、台湾人のリアルな生活・風習を学ぶことができたと思います。それと同時に、日本語学科などの台湾人学生は、こちらが外国人ですので、わかりやすい表現やスピードで話してくれますが、その意識がない一般の人達との会話は本当に難しいものだと思感しました。日本語学科の学生と話している時はお互いにお互いの言語を学んでいるからこそ分かり合える部分があったのだと気づくことができました。数人の台湾人同士で話しているとスピードも速く、時折台湾語から派生した言葉が混じっていたりしてついていくのに本当に大変で、今でもまだまだ分からないことがたくさんあります。台湾人の学生は、私が会話についていけなくても、「つまらなくない？」と心配してくれたり、旅行や台湾の文化施設などいろいろな所に連れて行ってってくれたりしました。そのたびに台湾人の他人への気遣い優しさに触れることができ

ました。

台湾人の学生達と交流する中で、最も印象に残っていることは、良い意味で“他人の目を気にしない”というところです。服装・メイク・髪型など、日本人は「外見の第1印象」の部分で多くを判断しがちですが、台湾人はみんな自由で自分のしたいようにしていました。もちろん社会に出ればそうも行かないと思いますが、今まで日本で生きてきて、そういう部分ばかりを気にしていた自分にとってはとても新鮮に映りました。服装がかなりラフだったり、あまりメイクしない女の子もたくさんいて、そういう文化に触れるうちに、何とも言えない心が軽くなったような感じを覚えました。

1年間の交換留学を終えて、語学の面ではまだまだ自分の満足いくところまで達成することができず、1年生の時に先輩に言われた言葉の意味がやっと分かりました。確かに聞き取る力はずっと上がりましたが、それにしっかりと的確に返答できるようになるのは本当に難しいことです。ただ語学だけを学びたくて留学したいと思うなら、現地に留学しなくても自分の努力次第で、留学経験者に近いレベルに行くことはできるかもしれません。留学には、言葉を学ぶこと以外のいろいろな収穫がありました。私自身、語学学習のほかに、特別な体験ができて、大切な友人に出会えて、この交換留学で得た経験は、一生の宝物になりました。

留学を認めてくれ支援してくれた両親や、留学前から留学期間中もお世話になりました永井先生や国際交流センターの人たちに感謝します。1年間、本当にありがとうございました。





中国 浙江工商大学
浙江工商大学に留学して
 大学院文学研究科
 博士前期課程2年 鈴置 拓也

私が留学した杭州は中国の歴史を体感できる場所でした。特にそれを感じたのは西湖周辺です。ここは湖が有名なだけでなく、西湖の畔にある様々な文化遺産も見逃すことができません。私も靈隠寺や西冷印社といった日本とも関わりの深い観光地にいき、肌で中国の文化を学ぶことが出来ました。

浙江工商大学の授業は、私の場合、月曜日から金曜日にかけての午前中の中国語の授業でした。しかし、授業ではただ中国語を学ぶだけでなく、例えば先生が西湖にまつわる蘇軾の漢詩「飲湖上初晴後雨」を紹介してくれるなどといった特色あるものでした。

私はこれら中国語の授業の他に、東方語言文化学院の授業も聴講したり、毎月のように行われるさまざまなシンポジウムに参加し、普段はあまりなじみのない分野を学ぶことが出来ました。また、東方語言文化学院主催で10月26日に行われた「東亜視域下的中日文化関係」というシンポジウムで発表をさせていただくこととなり、貴重な体験をすることが出来ました。この他にも浙江大学でのシンポジウムにも何度か参加させていただき、中国語の学習だけでなく、自身の研究分野の知識も深めることが出来ました。私にとってこのような経験ができたことは、浙江工商大学に留学して良かったと思うところです。

しかし不満も残りました。というのは、宿舎における騒音についてです。私は外国人留学生用の宿舎に住んでいましたが、ある人は夜通し音楽を大音量で流したり大声で話したりしており、私は宿舎での学習もはかどらず、また眠れない日もありました。このような人々は大学の職員からの注意も聞くことはなく、結局解決はしま

せんでした。他にも、新学期が始まるに際し、時間割を教えてもらえず、結局一ヶ月ほど経過してから、国際教育学院から私の在籍するクラスを開講しないと連絡を受け、急遽すでに始まっている別のクラス（教科書は前学期と同一で内容も同じ）に編入させられたりと、学習面では必ずしも充実していたとは言えない面もありました。このことは私が浙江工商大学への交換留学生の一人目であるために、実態が分かっていなかったという事情もあるが、今後の改善点としていただきたいです。

また、私は夏休みなどの長期休暇には中国のさまざまなところへ旅行に行きました。いま留学中に行った場所を挙げてみると、上海・蘇州と常州・安慶と桐城・寧波と余姚・南京と揚州・南昌があります。これらの地域について一々感想を言うことはできませんが、いずれも私にとってはかけがえのない思い出です。

一年ほど留学して私を感じたことは、中国は誰もが自然体で自由に暮らしている国であるということです。言葉で説明すると語弊を生む恐れがありますが、接客を例にすれば、日本では多く接客マニュアルに従って接客しており、質問をしてもそのマニュアル通りの答えが返ってくるだけであり、その人の心はみえないことがあります。一方で中国人は接客態度を取ってみても飾らない人が多く、時には冷たく感じることもあるかもしれません。しかし、このような人々は常に自分を持って接客しており、少し話してみればすぐにその人の心を見ることが出来ます。どちらが正しいということではないのですが、私は中国人の接客態度の方が好きです。

中国という国は大きく、私の中国に対する理解度も深くありません。しかし、一年間の留学を通じて中国とそこに住む人々のことがますます好きになりました。私の将来はどのようになるかまだ分かりませんが、できることならこれから先もずっと中国と関わっていきたいと思いました。



2019年度 交換留学生修了報告

私が留学して
成長したことは

台湾・中国文化大学 陳 禹慈

世界を知るといふシンプルな理由で、日本への留学を決めました。世界を体験することで自分の価値観に気づき、より成長した自分になりたいと思ったからです。

日本に来て10ヶ月が経ち、自分自身の成長を実感することができ、とても充実した日々を過ごしています。学校の授業のことはもちろん、シェアハウスでの生活も本当にいい意味で私の価値観を変えてくれました。シェアハウスでの生活には最初抵抗はありましたが、慣れていくうちに良かったなと感じるようになりました。さまざまな国籍の人が一緒に生活しているので、英語も日本語も自然に話せるようになりました。苦手だった日本語の会話も自然にできるようになりました。留学前は外国人の先生と話すことを避けるようにしていましたが、今では自分から話せるようになりました。

そして、病気をした時や困ったことがあったときなどは、誰かがそばにいてくれるというだけで安心することができました。

日本では様々な人々と出会い、自分にない価値観を認め合うことで自分自身の成長を感じることが出来ました。何よりも様々な分野で活躍している人と知り合ったことは一番の収穫でありました。



富士山にて



須賀にて

今、留学生生活を振り返ってみると、日本での生活は本当に夢のような時間であり、私の人生の中で最も充実した時間だったといっても過言ではありません。



留学してよかった！

台湾・中国文化大学 陳 郁雯

交換留学生としてこの1年間、様々な授業を受け、日本の文化を体験し、多くの経験を通して、素敵な思い出もできました。

入学試験を受けただけでなくインターンシップも応募しました。留学期間はアルバイトが禁止なので、留学の



寮で仲良しの友人とたこ焼きパーティー



ディズニーシーにて

2ヶ月前に、特定活動ビザで新宿ルミネの免税カウンターで少しだけ日本でアルバイトの体験をしました。留学前に少しだけアルバイトしたおかげで、学生生活が充実したものになりました。

授業では、書道が一番受けて良かった授業でした。私が小学生の頃から書道の授業はなくなり、私の周りには書道を経験した人は一人もいませんでした。この留学で書道の授業を受けられて本当によかったです。

留学生活は楽しい思い出だけではなくありませんでしたが、将来、日本で就職するかどうかの参考にもなりました。この1年間、困った時や寂しかった時もありましたが、楽しい時間もたくさんありましたので、留学して本当に良かったと思っています。



充実した留学生活

周口師範学院 鄧 耀慧

光陰矢の如し、知らず知らずのうちに、留学の生活が終了間近となりました。この一年間を振り返れば、多くの人と出会い、たくさんのことを体験しました。

勉強においては、日本文学、漢文訓読、書道、国際法、経済学、仏教文化など興味を持っている授業を受けました。新しい知識を勉強した上に、日本人と中国人と

の習慣の違いや、先生方の授業の進め方の違いも感じました。学校の先生方は、わからないことがあったら、優しく丁寧に私たちに教えてくれました。

日本の四季を感じながら、お正月、初詣、花見、花火大会、いろいろなお祭りにも行きました。友達と一緒に江の島、川越、横浜、鎌倉、お台場、関西などたくさんの素敵な場所へも旅行し、小津和紙で初めて和紙を作り、コカコーラ多摩工場を見学し、国立劇場で歌舞伎も観ました。また、多くの展覧会にも出かけました。それらは私にとって、素晴らしい体験でした。

留学生活のおかげで、私の性格が外向的になり、多くの人と出会い、友達になりました。皆と一緒に料理を作ったり、パーティーや旅行をしたりもしました。本当に楽しかったです。

この充実した留学生活が、私の忘れられない大切な思い出になると思います。



皇居にて



小津和紙で和紙を体験



桜の花、咲く頃

中国・浙江工商大学 王 蕾

桜の花が咲く頃に、私はここに留学してきました。

半年間は本当にあっという間に過ぎ去り、さようならは言いたくありませんので、記念としてこの感想文を書かせていただきました。ひとことで言うと、とても有意義な留学生活でした。

空港までの迎えや、荷物の手配、寮までの送迎や、歓迎会を開いてくれたり……感謝の気持ちは言葉だけで言い表せません。

私は以前からずっと漢文訓読法を習いたかったので、ここにきてやっと学ぶことができました。図書館もたくさん蔵書と論文があって、卒論も大変助かりました。そして加藤先生もすごく博学で優しい方で、卒論についてもいろんな指導をしていただき、初めての留学の私も安堵感がありました。

もちろん、東京といえば観光には欠かせない所です。友達と一緒にいろんな観光地に行きました。浅草寺、スカイツリー、東京駅、秋葉原……全て小説やアニメの中でしか見ない場所が、自分の目で見れるなんてまるで夢のようでした。本が大好きな私は、秋葉原の中古本屋で、帰国したら原版本はなかなか買えないので、たくさん買い込み大変満足しました。やはり東京は便利だと思いました。

私もそろそろ卒業を迎える時期ですので、自分が経験して感じた日本のことを日本語と一緒に、中国の生徒に



皇居にて

伝えたいと思い、将来は日本語の教師になろうと思っております。

この半年間の日々は必ず一生の思い出になる。本当にありがとうございます。



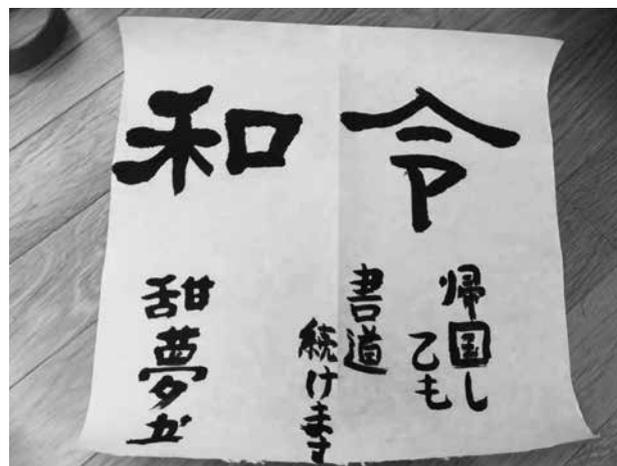
かけがえのない日々

中国・浙江工商大学 姫 甜夢

あっという間に過ぎた半年間でしたが、人生初めての首都生活、電車通学、書道の授業、ジェンダーの勉強などなどたくさん体験しました。とても勉強になり、先生



富士美術館にて



最後の書道の授業で書いた作品



書籍「坂の途中の家」の表紙

方には心より感謝しています。

私は本屋さんがとにかく大好きで、当初から「たくさん読書がしたい」と思っていました。本の中でも、文庫本が好きなので、本屋さんを見かけるたびに入店して好きな文庫本を購入していました。読むのが遅いので、平均1ヶ月に一冊のペースで読んでいきました。『残穢』『坂の途中の家』と『沙門空海唐の国にて鬼と宴す』4巻でした。どれも考え深いもので、ジェンダーの知識や中国の唐の歴史、仏教の知識などが吸収できました。

また、書道の授業では初めて筆を使って書きました。半年間、授業をうけましたが、私の書はまだ見るに忍びないものですが、これからも続けていきたいと思っています。

休みの日には計画を立てずに、知らない街や路地に入り散歩するのが好きです。その中でも神楽坂が一番印象に残っています。昔と今の集合体で、ザ・ジャパンという感じもします。また、友達と行った東京富士美術館にはとても感動しました。

とても楽しかった留学生活でしたが、やはり反省すべき点多々あると思っています。最初に立てた計画の

中には、うまくいかないものもありましたが、まだ1ヶ月ありますので、頑張りたいと思っています。



一生をかけて、 覚えておきたい日々

中国・浙江工商大学 胡 銘心

楽しい時間が過ぎるのはいつも早すぎます。二松学舎大学で過ごした時間はまさにそうです。みんなが花吹雪を見てあげた賛嘆の声はまだ聞こえてくるのに、気がつけばすでに猛暑になっており、期末になってとても寂しい思いです。

短い間でしたが、皆さんから受けたやさしさは数え切れません。論文に度々助言をいただいた王宝平先生、面倒をよく見ていただいた高澤先生、いつも助けていただいた国際交流センターの齋田先生、三島先生、染谷先生と木谷先生。特に、二松学舎大学でもう半年間勉強するチャンスを与えてくれた江藤先生、牧角学部長と王先生には心より感謝しています。このチャンスを無駄にしないよう大事にしたいと思っています。

休みの日には、友達と一緒に東京の街をぶらぶらしていたので、かなり東京通になってきました。

交換留学生として二松に来れたことで、いろいろな皆さんと出会えて本当に良かったです。このすばらしい体



東京湾クルージング



目黒のさんまも食べたかったな……

験は、私にとって一生忘れられないものになりました。これからの半年間も、もっともっと勉強して、たくさん体験していきたいと思っております。どうぞよろしくお願ひします！



桜咲く季節 私の日本留学

中国・浙江工商大学 潘 思慧

3月25日、ワクワクしながら、飛行機に乗りました。夜中のフライトで、成田空港についたときには、私はすごくワクワクしていて、ようやくきました、東京へ。

本当の日本はどんな様子何のかな？ よくネット、雑誌、テレビでは見ていましたが、自分の目で確かめるのは新鮮です。住んでいる寮は東京郊外のある小さい町にあります。近くには武蔵野神社がありますが、日本ではどこにでも神社や、お寺があるみたいですね。この神社は観光地の神社と比べて、すごく静かです。木陰を歩くと、神の世界にたどり着いた感じがしました。農家直売をしている新鮮な野菜、ちょっと狭い中古店、花満開にしている綺麗な庭、親切な日本人、これは自分自身が体験しないとわからない日本です。

日本の大学院生の授業は中国とはちょっと違うところがあります。それは授業の科目は全部自分で選ぶこと、そして多くは先生の研究室でゼミのような授業です。少ない人数のおかげで、先生との直接的な交流の機会は結構えられました。テキストを読んで、先生と会話して、学



姫路城にて



人気アニメの看板

術内容以外、会話能力もあがったと思っております。本当に色々勉強になりました。

東京に来たのはちょうど桜咲く季節でしたので、学校の近くでは、桜が満開になっており可愛い花に魅了されました。そして平成から令和、日本で年号交替を経験したのは、一生忘れない経歴となりますね。休日の時も、いろんなところへ観光しに行きました。歴史溢れる姫路城、大人気な浅草寺とスカイツリー。また、いろいろな展覧会など、この短い半年間の留学で日本の文化を満喫し、本当の日本をこの目で確認し、大変満足しました。このプロジェクトを企画した皆様に本当にありがとうございました。



日本での留学生活

中国・浙江工商大学 呉 慧麗

二松学舎大学での半年間での留学期間で、日本に多くの友達を作ることができました。学校では先生たちにはいつも優しく教えていただき、いろいろ勉強になりました。特に、大学の図書館は私にとっては深く印象に残り、この大学で勉強できて幸せでした。

交換留学の間には、シェアハウスに住んでいました。ここには、日本人だけではなく、欧米、インド、韓国からの留学生もいました。私は皆人と一緒に、節分イベントやクリスマスパーティーなどにも参加しました。

また、せっかく東京に来たからには、ディズニーラン



江の島にて

ド、お台場、東京スカイツリーなど有名な場所はもちろん、美術館なども友達とたくさん行きました。東京は伝統と現代が共存している都市ということを深く実感しました。

どんどん日本の生活に慣れてきたのに、帰国するのはちょっと残念だと思いました。日本での留学生活は一生忘れられない思い出です。勉強でも旅行でも、私はまた日本に来たいと思っています。



有意義な留学生活

中国・浙江工商大学 唐 尚博

二松学舎大学で文学、メディア学及び中国学の授業により、様々な勉強をしました。そして、日本の文化を体験するいいチャンスにも巡り会いました。暇があるときはいつも神保町の古本屋で、面白いなあと思う本を半日以上もかかって探しています。また、休みの日にも一人旅をしながら、名所旧跡は言うまでもなく、博物館や図書館もよく訪れます。

シェアハウスでは、各国の友人とお互いの文化を話し合ってみたり、みんなと一緒に料理を作ってパーティーをしたりとても楽しかったです。その間、日本語能力も一段と上手になりました。

残念ながら、留学生活はあっという間に過ぎ去ってし



初めて友達と回転寿司を食べる



クリスマスパーティー



年越しのパーティー

まいりましたが、今回の交換留学に参加できて、本当によかったと思っています。

二松学舎大学の諸先生からのご指導をいただき、心から感謝の意を表します。これからも日中文化に関する分野で頑張りたいと思っています。



一期一会

中国・浙江工商大学 李 芷

2020年1月20日、今学期最後の「近代日本文学講義」の授業での、発表がようやく無事に終わりました。とても親切な山口先生が「発表、お疲れさまでした」と私におっしゃって下さいました。

七限目、松本先生の授業も順調に終わり、千葉県にある寮への帰宅途中の北の丸公園を通り過ぎた時、たまた

ま樹の上にきらきら輝いていた星を見た時、「もう終わりのなの？半年の留学生活は」。心の何処かに何となく不思議な気持ちを抱いていました。

半年間は、本当にあっという間でしたが、振り返ってみると、二松学舎大学に来て本当に良かったと思っています。

私は日本近代文学にずっと興味を持っていたので、夏目漱石の「心」、太宰治の「斜陽」、中島敦の「光・風・夢」など、数を挙げれば切りがないほどの愛読書があります。一番好きだった授業は、山口先生の「近代日本文学講義」でした。「探偵小説」についての文芸評論、日影丈吉という作家の短編小説を鑑賞することは今学期のテーマでした。先生は優しく、私の発表内容を丁



県立神奈川近代文学館



太宰治文学サロン

寧に修正してくれました。先生の授業を受け、今までと違った視点で文学に触れたことで、近代文学への理解がより一層深まりました。

昨年11月には学園祭・国際交流会・留学フェアにて、実はアンドロイドですけど「夏目漱石」先生と出会いました。生きているように私たちに挨拶したり、笑ったり、英語で基調講演もしました。みんなで夏目先生と一緒に写真も撮りました。留学フェアでは、各地から来た留学生とゲームをしたり、話しをしたり、数多くの楽しい思い出が深く記憶に刻み込まれました。

留学の余暇を使って、太宰治の文学サロン、県立神奈川近代文学館に行きました。ずっと観たかった文豪に関わる舞台劇を観ることができ大変満足でした。

日本近代文学を好きになって日本に、また二松学舎大学に来て、本当に良かったです。この半年間に会った人、作った素晴らしい思い出は、夜の大学の道端にあるナイトライトのように、ずっと灯しているのでしょう。



最高の思い出

中国・浙江工商大学 林 晶晶

2019年9月1日の秋の初めに、日本にやって来ました。初めて日本に来たので、いろいろなものに対して興味を持っていました。

日本に来た時、ちょっと不安に感じたことがあります。それは日本と中国との生活習慣が違うからです。その中で、一番印象深いのはお店などの営業時間です。中国の商店なら、夜12時まで営業する店はたくさんあるのですが、日本では夜9時以降は、24時間営業しているコンビニと深夜まで開店する居酒屋を除いては、ほとんどが閉店しております。最初は非常にショックでしたが、そのあと日本人の友達から、「みんなが早く家に帰って、休憩したい」と聞かせれ、納得し、この生活にも慣れていきました。

日本にいる期間中は、寂しさより楽しさのほうが多かったです。学校では、教授から新しい研究方法を教えられたり、優しい先輩達方もいます。寮では、各国の人たちと友達になり、一緒に料理を作ったり、パーティーに参加したりなど、とても楽しかったです。また、暇な

時には友達と一緒に銀座、渋谷、池袋などに遊びに行きました。今年の一月初日には、日本での年越しを経験しました。渋谷の交差点でみんなと一緒にカウントダウンしてから、増上寺に初詣に行き、もちろんお守りも買いました。この興奮した感情は今までもはっきり覚えています。

ワクワクという感じがまだ消えないうちに、帰国の日が迎えられます。しかし、体験したことは、全部頭の中に残っています。その思い出は今後も忘れられないはずです。

たった半年間でしたが、みんなのおかげでいろいろ勉強になりました。今後もこの半年間の思い出を胸に刻み、一所懸命前に進もうと思います。



渋谷にて、年越しのカウントダウン



寮のパーティー

2019年度 国際交流の会と留学フェア報告

国際交流センター主催の総合的な国際交流行事である「国際交流の会」を創縁祭当日11月3日(日)に九段キャンパス1号館11階にて開催しました。異文化交流の機会提供及び学内の留学機運の醸成を目的とする新たな試みとして、留学の魅力を伝える行事「留学フェア」を併催しました。60名を超える多くの来場者でにぎわいました。

冒頭には、本学では初となる「漱石アンドロイド」による英語スピーチが披露されました。海外で過ごす大切さ、ロンドンでの想い出話などが語られると会場は大きな盛り上がりを見せました。発表会では、英国(ケンブリッジ大学)、豪州(サザンクロス大学)に留学した日本人学生と、中国(嘉興学院、浙江農林大学、鄭州大学

等)及び台湾(中国文化大学)の外国人留学生が、「自国の文化の再発見」や「日本人・外国人に紹介したいもの」など異文化交流にまつわる同じテーマに沿って、自身の体験や意見を発表しました。ご参加いただいた父母会役員のみなさんからは「とても初々しくてエネルギッシュで良かった」とのご意見をいただきました。また参加した留学生からは「夏目漱石先生にも会えるし、今まで体験しない経験ができて、二松学舎大学に留学して本当に良かった」という声が寄せられました。

本学公式キャラクターのねこ松もサプライズで登場し、沢山の参加者が漱石アンドロイドとねこ松との記念撮影をしていました。終始、笑顔が絶えないあたたかい雰囲気での行事となりました。



発表者全員



うれしい！ねこ松と漱石先生とのスリーショット



駄菓子がほしくて！



発表会の様子

2019年度 国際交流年末懇親会報告

12月7日（土）、二松学舎大学九段キャンパス1号館地下1階学生食堂を会場として、外国人留学生、教職員、父母会役員、日本人学生、など約80名が集い、国際交流年末懇親会を開催しました。

開会に際し、江藤学長から国際交流活動への父母会の支援への感謝及び留学生の積極的な異文化交流活動に対する称賛の言葉が述べられました。続いて、中澤父母会長の乾杯の発声により懇親会が始まりました。

今年は日本文化の体験行事として、マグロの解体ショーを行いました。威勢の良い掛け声とともに職人が大きなマグロを手際よく捌いていく様子を、初めて解体ショーを見た留学生は驚いた様子でした。マグロの頭部を切り落とす段になり、大きな包丁をいれるときには、会場にいる参加者全員が威勢よく「よいしょ、よいしょ。」と大きな掛け声をかけて大変盛り上がりました。その後、きれいに切り

分けられたマグロを切り身にして、寿司として参加者にふるまわれました。

その後行われた学生からの発表では、本学留学生全員によるK-POP（韓国ポップ音楽）のダンスが披露されました。また昨年2月に中国・浙江工商大学での短期海外語学研修に参加した日本人留学生が「外国語能力向上の秘訣」をテーマにした体験談を日本語と中国語で披露されました。

続いて、余興として行われた全員参加のビンゴ大会も大きく盛り上がるなど、全てのイベントが印象に残る懇親会となりました。参加者同士、マグロを背にした記念撮影を行うなど親睦も深まり有意義な交流の機会となりました。

最後に、王宝平国際交流センター長から閉会の挨拶があり、盛況のうちに閉会となりました。



マグロを召し上げ！
写真左から牧角文学部長、江藤学長、職人、中澤父母会長



父母会の皆様と留学生

2019年度 日本語・日本学特別プログラム報告

平成から令和に変わる歴史的な節目となる3月下旬から4月上旬にかけて、総勢48名の留学生が来日しました。「日本語・日本学特別プログラム」は、今回で3回目の実施となり、過去最多の参加人数となりました（1年目39名、2年目41名）。

年を追うごとに本プログラムに参加する海外協定校の数も増加し、2019年度は計8つの大学から留学生を受け入れました（嘉興学院、浙江越秀外国語学院、浙江農林大学、浙江外国語学院、河南大学、浙江工商大学、浙江財経大学、浙江大学寧波理工学院）。

「これまで母国で学んできた日本語が、どこまで通用

するのか？先生の授業をちゃんと聞き取り、理解することができるのか？」おそらく多くの留学生は、期待と不安の入り混じった複雑な気持ちで本学に足を踏み入れたことでしょう。本プログラムは、上級・中級・初級の3クラスで構成されており、上級クラスの学生は最初から本学の日本人学生と同じ授業（文学部の一般開講科目）を履修することができ、中級および初級クラスの留学生は日本語授業を履修することで、それぞれの日本語能力に応じた指導を受けることができます。春 semester の段階では、中級および初級クラスでスタートした学生でも、7月に実施された実力テストで高成績を取った学生

は、後半の秋 semester で上級クラスに昇級し、日本の大学の講義を肌で感じるという貴重な経験ができました。

また授業以外でも、日本の生活や様々な文化を体験し、またアルバイト活動等を通じて、学内以外の交友関係も大きく広がったことと思います。多くの留学生たちは、1年間という限られた留学生活の中で、自分の可能



日本の「折り紙」文化を伝えるワークショップでの一コマ

性を飛躍的に進歩させることができたことでしょう。

留学の終盤は、「新型コロナウイルス」の感染拡大の余波で、帰国のタイミングが難しかった学生も見受けられましたが、今回の留学を機会に、また日本の大学院への進学や日本と関係する職業に就く等、一人でも多くの留学生が日本と関係を持つことを期待したいところです。



修了式時の集合写真

2019年度 日本語文化特別プログラム報告

「日本語文化特別プログラム」は、2017（平成29）年度からスタートした「日本語・日本学特別プログラム」の1年半後、2018（平成30）年9月から始まりました。本特別プログラムは、中国河南省にある鄭州大学からの交換留学生を、半年間だけ受け入れるプログラムとなっております。



茶道（お茶会）体験会時の一コマ

今回で2回目の開催となる2019年度は、計20名の鄭州大学の学生が来日し、全員九段キャンパスで学部的一般開講科目を受講しました。授業だけでなく、11月の創縁祭など、学内行事にも積極的に参加し、短期間ながらも実りの多い留学となったことでしょう。



修了式時の集合写真

国際交流センターからのお知らせ

本学では、英語圏、中国語圏、韓国語圏への短期海外語学研修や派遣留学の機会を提供しています。研修先や制度についての詳細は国際交流センターまでお問い合わせください。

◇本誌へのご意見・ご感想をお寄せください。 E-mail : icenter1@nishogakusha-u.ac.jp